



各部署のスタッフがそれぞれの任務を遂行し、  
つくりあげていく。  
それが心臓外科手術と心臓リハビリテーション。

心臓血管外科の下川智樹先生に、心臓リハビリテーションと心臓血管外科との関わりについて伺いました。

「心臓血管外科は、心臓と血管の病気に対して手術を行う治療をする科です。まずは循環器内科で検査をして、手術が必要なら心臓血管外科に転科することになります。

心臓リハビリテーションと心臓血管外科との関わりは密接で、心臓リハビリテーションとしてはいい治療はできないと考えています。手術をしただけでリハビリをやらなければ患者さんはよくなりません」

心臓リハビリテーションセンター設立の経緯はどのようなものでしょうか？

「2009年に帝京大学に赴任したときは、心臓リハビリテーション施設がないという話だったので、必要性を訴えたところ循環器内科の一色先生のご尽力で、無事設立の運びとなりました。過去3年間に約700人の手術を行い、全員心臓リハビリテーションを行っ

ています。以前は、患者さんには手術後一ヶ月くらい寝てもらうのが当然でしたが、今は早く動かした方が様々な合併症にもかかりにくいということがわかってきました」

**心臓リハビリテーションセンターが果たすべき役割**

「脳血管や整形のリハビリと違い、患者教育も担うということです。薬剤師が薬のことを説明し、管理栄養士が栄養のことを説明するなど、予防医学に近いところがあると思います。そういう部分も含めて心臓リハビリテーションなので、患者さんが能動的に、やる気になるためのお話しをします。リハビリの技師さんは患者さんと世間話をしながら廊下を歩いたりするので、「患者さんはこういう不安をもっている」という情報を引き出して、それを主治医に伝達することができます。普段感じていることやちょっとした不安等を、リハビ



下川智樹先生  
Shimokawa Tomoki  
心臓血管外科学講座主任教授

平成4年佐賀医科大学卒業。佐賀医科大学胸部外科に入局し、榊原記念病院専修医、佐賀医科大学胸部外科医員、榊原記念病院心臓血管外科医長を経て平成21年9月より現職。

手術実績(執刀数)  
心臓大動脈手術 2043例  
(2002年5月～2012年11月)

リの技師さんを通じて知ることができますし、これがチーム医療に繋がっていくと思います」

**心臓リハビリテーションをもっと広げたい**

「日本で高血圧の薬を飲んでいる人はたくさんいますが、そのほとんどは心臓リハビリテーションとは無縁です。そういう方も心臓リハビ

**術後1日目から始まる、リハビリテーション。**

**1日目 起立、足踏み**  
70歳代女性 弁置換手術後

**2日目 50m歩行**

**3日目 100～200m歩行**

**4日目 200～400m歩行**  
70歳代男性 環動脈バイパス手術後

**5日目 400m歩行+階段**

**6日目 心臓リハビリ室**

リテーションが受けられるようになってほしい。民間や地域や、他の病院でも受けられるようになればと思います。そういう意味では、心臓リハビリテーションはスタートしたばかりだといえます」

最後にスタッフへのメッセージをお願いします。

「心臓手術をするだけで患者さんは元気になるわけではなく、それぞれの担当部署が、それぞれの任務を行うことによって完成されるのが心臓外科手術だと思います。一緒にチーム医療を行っていきましょう」



